

# 平成17年度試験研究成果書

区分	指導	題名	鉢物りんどう「いわて乙女」の品質に及ぼす培土組成の影響		
〔要約〕鉢物用培土を赤玉土を主体とした組成にすることにより、株養成時の根腐れ発生が抑制される。					
キーワード	りんどう	鉢物	培土	園芸畑作部	花き研究室

## 1 背景とねらい

りんどう鉢物品種である「いわて乙女」は、本県の鉢花生産の中心品目となっているが育苗時の根腐れによる株落ちの発生が出荷率の低下を招き、経営を悪化させる要因の一つとなっている。そこで、株落ちの原因・対策について検討するとともに、高品質生産技術について検討を行う。

## 2 成果の内容

- (1) 現地での慣行であるもみがらを主体とする育苗培土に対し、赤玉土を主体とした培土組成に替えることにより根腐れの発生を抑制し、越冬芽数が増加する(表1)。
- (2) 培土組成は赤玉土を使用する培土組成(赤玉:ピート:和田砂=3:5:2)を基本とし、窒素成分量は240~360mg/Lの範囲で、根腐れが抑えられ地下部重及び越冬芽が増加する(表2,3)。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本成果は1年目のポット育苗での株養成における、もみがらを主体とした培土に対する効果であること、また、生産者個々により培土の組成割合や肥培管理が異なることに留意する。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等  
「いわて乙女」生産者
- (2) 期待する活用効果  
「いわて乙女」の株落ち軽減による生産性向上

## 5 当該事項に係る試験研究課題

- (H15-12) 寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立  
(1) 鉢物りんどう「いわて乙女」の高品質安定生産技術の確立(H15~17、県単)

## 6 参考文献・資料

平成13~14年 農業研究センター 花き研究室 花き試験成績書

## 7 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 培土組成が品質（根腐れ発生）に及ぼす影響（H15～16）

試験区 (培土組成)	草丈 (cm)	立茎数 (本)	節数	根腐れ <sup>1)</sup> (%)
現地慣行(もみがら:ピート土:十和田砂=4:4:2)	12.3	3.2	10.6	73
ア(赤玉:ピート土:十和田砂=4:3:3)	16.4	3.6	12.2	30
イ(赤玉:ピート土:十和田砂=4:3:3) + GA処理	20.2	4.2	13.5	33

は種:H15.4.10 鉢上げ:H15.6.30 GA処理:H15.7.1

培土窒素成分量:いずれも210mg/㍓

調査:H16.5.13

1)根腐れ:生育に支障をきたす程の根腐れを生じたポットの発生割合(根鉢表面積の2割以上)を示す

表2 培土組成が品質に及ぼす影響（H16～17）

試験区 (培土組成)	調査H16.11月			根腐れ <sup>2)</sup> (%)	調査H17.5月	
	根量 <sup>1)</sup> (%)				立茎数	根腐れ <sup>2)</sup> (%)
	少	中	多			
ア(赤玉:ピート土:十和田砂=3:5:2):対照	13	33	54	47	3.7	54
イ(赤玉:ピート土:十和田砂=3:5:2)+バネン	30	20	50	30	3.4	33
ウ(赤玉:ピート土:十和田砂=3:5:2)+G 1g/㍓	0	30	70	30	4.5	40

は種:セトレ H16.3.12 鉢上げ:7.5cmポットH16.6.1

培土窒素成分量:ア(240mg/㍓)、イはアにバネン2割混合 ウ(340mg/㍓)

調査:H16.11.10 H17.5.11

1)根量:達観による評価

2)根腐れ:生育に支障をきたす程の根腐れを生じたポットの発生割合(根鉢表面積の2割以上)を示す

表3 元肥の違いが苗質に及ぼす影響(H17)

試験区	葉数	越冬 芽数	根腐れ <sup>1)</sup> (%)	乾物重(g)	
				地上部	地下部
ア 緩効性肥料 a (対照) (N=240mg)	4.8	3.7	29	0.25	0.43
イ 速効性肥料 ( " )	4.0	4.0	0	0.29	0.55
ウ 緩効性肥料 b ( " )	4.2	4.4	10	0.34	0.65
エ 緩効性肥料 a (N=360mg)	4.7	3.7	10	0.28	0.58
オ 堆肥混入	5.1	3.9	12	0.36	0.66

培土組成:ア～エ(赤玉:ピート土:十和田砂=3:5:2)、オはアに堆肥を2割混合

は種:セトレ H17.3.7 鉢上げ:7.5cmポットH17.5.27

1)根腐れ:生育に支障をきたす程の根腐れを生じたポットの発生割合(根鉢表面積の2割以上)を示す